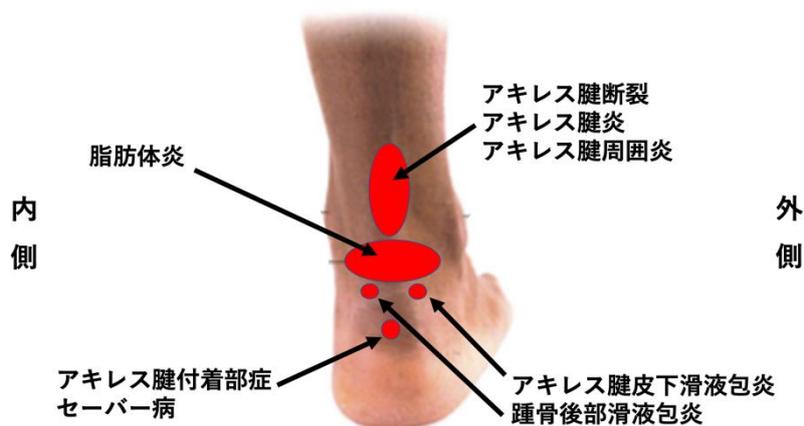


セーバー病

セーバー病とは

小学生のスポーツをやっている子で踵が痛いという子はセーバー病を疑います。踵の骨がまだ成長過程にある中で、活発に運動を行うと、負荷が加わり、痛みを生じます。成長期の子に見られるオスグッド病とよく似た病態と考えてもらって良いと思います。

明らかな原因がなく、運動すると痛くなるのが特徴です。症状が強いと踵を地面につけるだけで痛みがあり、つま先立ちで来院する子もいます。ただ、スポーツが将来できなくなるといった心配はありません。15歳ぐらいになると踵の骨は大人の骨に完成するので、自然と痛みもなくなっていきます。



好発年齢は？

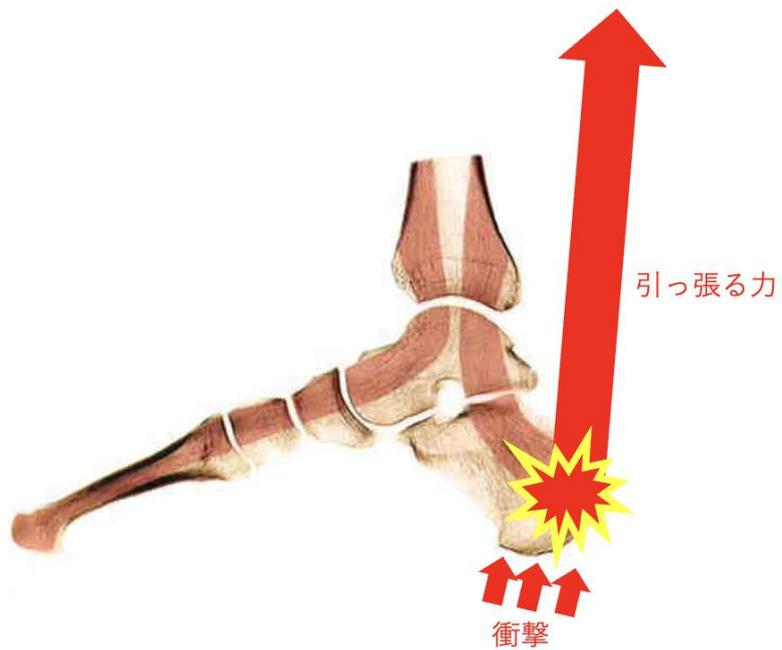
小学生から中学生

発生原因は？

運動量の急激な増加がほとんどですが、中には靴があっていない・靴の履き方がよろしくない・走り方が悪い・下肢柔軟性の低下によって生じることもあります。

発生メカニズムは

踵の骨にはふくらはぎの筋肉が付着します。ふくらはぎの筋肉による引っ張る力と、踵着地の衝撃が加わり痛みを生じます



どうやって評価するの？

若田接骨院では超音波観察装置で評価いたします。

子供の骨と、大人の骨では見え方がこんなにも違います。

しっかりとした輪郭が見られないのは、まだ軟骨だからです。

子供



大人



治療はどうやってやるの？

衝撃を和らげるように、足底にパットを入れます。

ふくらはぎの引っ張る力を軽減させるために、ふくらはぎの筋肉のストレッチ・マッサージを行います。

基本痛み次第で運動をお休みするかしないかを判断します。痛くても、出来ることはやっても問題ありません。我々はなるべくやりやすい環境を提案していきます。



子供の場合は怪我を経験して成長をしていきます。休むのも一つの練習だと思って治療に取り組んで守られると良いと思います。我々はそれをしっかりサポートしていきます。